

みらいに残す、ふるさとの食卓

～大人から子どもたちへ 伝えておきたい味と思い出～

第4回

「茶色いがんづきと ながし焼き」

00
石巻市
二子西
町内会館



大人と子どもが一緒におやつ作りを楽しみました

郷 土料理を通して世代間交流を図り、古里の良き伝統を継承する「みらいに残す、ふるさとの食卓」が1月18日、石巻市河北地区の二子西町内会館で開かれました。

地域に住む子どもや大人約40人が参加し、がんづきとながし焼きを作って味わいました。震災後の沿岸被災地は集団移転に伴うコミュニティーの希薄化や少子高齢化が顕著で、伝統文化を直接伝承する機会も減っています。この企画はこうした背景を踏まえたもので、地域交流を育みながら、地域の皆さんから子どもたちへ、誇るべき食文化を伝え、「ふるさとの食卓」を残すのを狙いとしています。

昨年7月に同会館でずんだだんご、9月に東松島市あおい地区でおくずかけ、11月には女川町でお雑煮をテーマに開催。最後は再び同会館に戻り、昔ながらのお菓子であるがんづきとながし焼きを作りました。

がんづきは、薄力粉と砂糖、水、塩を混ぜ、型に流し込んで蒸しました。子どもたちはヘラで生地を混ぜたり型に流し込んだりし、クルミがのったがんづきと黒糖を使った茶色いがんづきの2種類を作りました。



ながし焼きは薄力粉と卵、牛乳で手軽に作れるおやつです。子どもたちはホットプレートの上で丸く生地を焼き上げ、バターとハチミツをかけて完成。同地区で暮らす高橋朔久君は「がんづきもながし焼きもどっちもおいしくて満足」とこやかに話した。



二子西町内会の山下憲一会長は「ずんだだんごに続く懐かしい味。近所でおすそ分けしていた時代を思い出しました。地域の交流とともに食文化の継承にも大きな役割を持つイベントですね」と話していました。

手づくりの良さ感じて おいしいおやつを後世に

震災以降、仮設住宅の暮らしは住民同士の距離が近く、交流も多くありました。二子団地に集団移転してからはその機会が減っており、外に出る機会がなく丸1日家の中で過ごすことも。なので、こういったイベントはとてもうれしいですね。



今野吉子さん

がんづきは家でよく作っているもので、地域にとっては伝統のおやつ。今も遠くで暮らす息子に送ったりしています。昔ながらのよさを大人たちから子どもたちに伝えることはとても重要だと感じています。自分で仕上げる手づくりの良さを感じてくれればにより、地域と子どもたちとの交流も深まり、にぎやかで楽しい会になりました。

「茶色いがんづきと
ながし焼き」づくりの
様子はYouTubeで →

